

南海トラフ地震における半島・沿岸初動戦略検討会(伊豆エリア)

議事要旨

日時：令和6年7月4日(木) 14:00～15:45

場所：東部総合庁舎 別棟2階会議室

出席：中部地方整備局、静岡県、沼津市、熱海市、三島市、伊東市、下田市、伊豆市、伊豆の国市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町
41名（WEB参加あり）

1. 議事

- (1) 規約確認
- (2) 本検討会の検討内容・位置づけ
 - 1) 令和6年能登半島地震の被害状況
 - 2) 令和6年能登半島地震に係る災害応急対応の自主点検レポート等
 - 3) 本検討会の趣旨
- (3) スケジュール（案）
- (4) 意見交換

2. 議事要旨

（意見交換）

- ・職員が参集できるか危惧している。
- ・被害状況を自治体で把握することが困難。
- ・橋梁等が被災した場合、災害対策本部の設置場所が課題となる。
- ・資機材や非常食や避難場所の充実を図りたい。
- ・発災後の情報収集のためには通信手段の確保が重要と考えており、スターリンクの導入を検討している。発災時の生活用水の確保が課題であり、災害用井戸の設置を検討している。
- ・避難所での給水活動を見据えて組み立て式の給水タンクの整備を検討していきたい。
- ・災害時の緊急物資の輸送、人員の輸送などの支援として「命のみなとネットワーク」の取り組みを進めている。
- ・伊豆半島も能登半島と同じような地形であり、孤立が心配されている。
- ・伊豆半島は能登半島より人口が多く、観光客も多いため、孤立した場合の観光客への対応なども議論が必要と考えている。
- ・孤立に備えた備蓄等の強化に取り組んでいる。
- ・能登半島地震では「道路の寸断による孤立」がキーワードとなっている。備蓄食料や通信手段の確保など、孤立集落で生じる課題に対して1つ1つ対策を積み上げていくことが重要であり、連携して取り組んでいきたい。
- ・ドローンの実証実験など孤立集落を想定した対策にも取り組んでいる。
- ・7市6町首長会議など関係自治体との会議等を通じ連携した取り組みを行っていききたい。
- ・県外の自治体や近隣自治体と協定を結んでいる。
- ・24時間以内では人命救助が優先される。インフラや救急施設が重要と考えている。避難所や派遣職員・応援部隊の活動拠点を優先すべきと考えている。
- ・道路の早期啓開は大変重要であり、海路の確保は課題と考えている。

以上

検討会の様子

